

## 70 『日本書紀』の中の身体に関わる表現

計 良 吉 則

『日本書紀』は天武天皇の皇子舎人親王が元正天皇の命によって編修し、養老四年(七二〇年)に完成したといわれる。壬申の乱後の天武朝の諸政一新、律令国家建設の一貫として開始されたものであった。そこには古代国家成立の由来、大和朝廷による全国統治の所以と正統性を内外に顕示することが、その最大の目的としてあった。

神話を含む歴史書である『日本書紀』の中には身体に関わる表現が多くみられている。それらに着目し、考察することは古代を知るうえで意味があると思われる。

## 一、身体の動作や状態を示す表現

まず特徴的なのは、「到る」や「往く」、「投げる」などの体の移動や運動に関するものが多いことである。卷

第一神代下に「遂到<sup>二</sup>出雲之清地<sup>一</sup>焉」、「是後天照大神復遣<sup>二</sup>天熊人<sup>一</sup>往看之」、「因曰、自<sup>レ</sup>此莫過、即投<sup>二</sup>其杖<sup>一</sup>」とある。

また生死に関する表現も多く、卷第二神代下に「根裂神之子磐筒男・磐筒女所<sup>レ</sup>生之子経津主神」、「即其矢落下、中<sup>二</sup>于天稚彦之高胸<sup>一</sup>、因以立死<sup>二</sup>とある。

次に「有る」や「居す」などの存在を表すものもみられ、卷第三神武天皇に「時有一漁人、乘<sup>レ</sup>艇而至」、「徙入<sup>二</sup>吉備国<sup>一</sup>、起<sup>二</sup>行館<sup>一</sup>以居之<sup>二</sup>とある。

「娶る」に代表されるような、婚姻に関するものが随所にみられ、卷第二神代下には「来到即娶<sup>二</sup>顯国玉之女子下照姫<sup>一</sup>」とある。

一方、「憂う」、「憤る」などの感情、精神作用に関するものも多くみられる。卷第五崇神天皇に「何憂<sup>二</sup>国之不<sup>レ</sup>治也」、「是以既経<sup>二</sup>年月<sup>一</sup>、猶懷<sup>二</sup>恨忿<sup>一</sup>」とある。

また病的状態に関するものがみられ、卷第六垂仁天皇に「既身体悉瘦弱、以不<sup>レ</sup>能<sup>レ</sup>祭」、「若有<sup>二</sup>狂婦<sup>一</sup>、成<sup>二</sup>兄志<sup>一</sup>者」<sup>一</sup>とある。

容貌などに対する美的表現がみられ、巻第七景行天皇に「及<sub>レ</sub>壮容貌魁偉、身長一丈力能扛鼎焉」、「曰<sub>二</sub>弟媛<sub>一</sub>。容姿端正」、「名曰<sub>二</sub>八坂入媛<sub>一</sub>。容姿麗美、志亦貞潔」とある。

そして老若に関する表現もみられている。巻第十応神天皇に「亦問之、長与<sub>レ</sub>少孰尤焉」、

「是年耆之雖<sub>二</sub>致仕<sub>一</sub>、不<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>忘<sub>レ</sub>朝」とある。

体の清潔に関するものもみられ、巻第五崇神天皇に「兄謂<sub>レ</sub>弟曰、淵水清冷。願欲<sub>二</sub>共游泳<sub>一</sub>」とあり、巻第九神功皇后に「是以今頭滌<sub>二</sub>海水<sub>一</sub>」とある。

二、身体の部分や分泌物を表現したもの

巻第一神代上についてみると、四肢に関するものが最も目立つ。特に手や足を表現したものが多く、第五段に「乃以<sub>二</sub>左手<sub>一</sub>持<sub>二</sub>白銅鏡<sub>一</sub>、…右手持<sub>二</sub>白銅鏡<sub>一</sub>」、「在<sub>二</sub>足上<sub>一</sub>曰<sub>二</sub>野雷<sub>一</sub>」とある。

胸、腹、背など躯幹を表すものもみられ、第五段に「在<sub>レ</sub>胸曰<sub>二</sub>火雷<sub>一</sub>、在<sub>レ</sub>腹曰<sub>二</sub>土雷<sub>一</sub>、在<sub>レ</sub>背曰<sub>二</sub>稚

雷<sub>一</sub>、「腹中生<sub>レ</sub>稻」とあり、第六段に「又背負<sub>三</sub>千箭之鞆与<sub>二</sub>五百箭之鞆<sub>一</sub>」とある。

頭部や顔面についてもみられ、第五段に「此神頭上生<sub>二</sub>蚕与<sub>レ</sub>桑<sub>一</sub>」、「然後<sub>二</sub>左眼<sub>一</sub>…復洗<sub>二</sub>右眼<sub>一</sub>…復洗<sub>二</sub>鼻<sub>一</sub>」、「寧可<sub>下</sub>以<sub>二</sub>口吐之物<sub>一</sub>、敢養<sub>上</sub>我乎」とある。

また分泌物を表したもので、涙、血、唾、洩、息などがみられ、第五段に「其淚墮而為<sub>レ</sub>神」、「又曰、斬<sub>二</sub>軻遇突智<sub>一</sub>時、其血激越」とあり、第七段に「亦以<sub>レ</sub>唾為<sub>二</sub>白和幣<sub>一</sub>、以<sub>レ</sub>洩為<sub>二</sub>青和幣<sub>一</sub>」、第六段に「而吹出氣噴之中化<sub>二</sub>生神<sub>一</sub>」とある。

(順天堂大学医学部医史学研究室)